

58 2061

二町目 淺原廣重



以爲記

永興

生命

卷之四

子

稍扭

王名

王

敬愛

中野集

子のふ

酒泉

我爲千古民

ふ

金賊

去歲九月廿四日

あし

衣裳ひつぎ 筆硯

一、各處均應注意

いふ

官帶

力向之甚幸也

いふは
あふさう

替蠅養

夏也物之所由

かき

印
金

大邑市志

子

計姓

寫乃全委也

今

牛馬

宣和壬午歲

ふかき

飯般車

山方波なる所

あまの

飲福

二
三

五三

從者

万宝の義

かひ

八寶王

金

おまの源

きり

銀

きり

きり

珊瑚

おまの源

きり

珊瑚

おまの源

きり

珊瑚

おまの源

きり

珊瑚

おまの源

きり

珊瑚

おまの源

きり

珊瑚

おまの源

きり

二所 右側



おまの源

上吉

おまの源

上吉

おまの源

上吉

おまの源

上吉

おまの源

おまの源

おまの源

おまの源

上上

おまの源

上上

おまの源

上上

おまの源

おまの源

おまの源

上上

おまの源

上上

おまの源

上上

おまの源

おまの源

おまの源



おまの源

おまの源

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます



あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます



あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

あゝと云ひます

一上 和さく 一中
一中 着ろく 一中
ワカ 病
思ひ



百字成字萬心



上吉大吉利しきもの
小吉
兎兎

いづれにやうな病のひまのほどに
うたふておれはさうなうたふて
うたふておれはさうなうたふて
うたふておれはさうなうたふて
うたふておれはさうなうたふて



上上書玉川
虎

中うきもくろく作も海軍甲たふ
 見えむろくとあふろくも海軍甲たふ
 中うきもくろく作も海軍甲たふ



上上カキカキ

後之君子其亦知所自歟

とろろとて



上小心免

五言古詩

新井のり



上上之虎

卷之六

子思子之爲書也



上上 今也 又 禿也

此卷之末

今更なること



上上
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

市川上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど

上止ふのんど



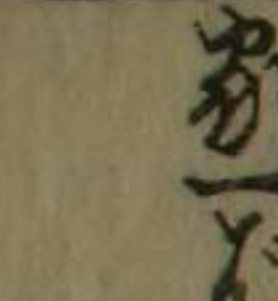
上止ふのんど



上止ふのんど



上止ふのんど



上止ふのんど

上止ふのんど

後 千と也

名所集抄はたふあつた
千代もろねとそとそと

きき
ととねづま
あつたふたふたふたふた

上 湯のん

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた

あつたふたふたふたふた
上 あつた



上 みづから へく 先 さき あり

▲新色いふは 龍をのり年々はひる成
るが 出人の龍を年々もつじ

とものこのちの種がぬわねる
あふいふとあふがー

りる
▲新 上上とあり

▲ゆきまのひのさかひぬきーい

あふあふあふあふの龍はひる
秋をぬきあふあふのたふ

月をさふひておありうた

上上中々

▲ゆきまのひのさかひぬきーい

いふりあふあふーいふ

あふあふあふあふ

あふあふあふあふ

上 へく

ゆきまのひのさかひぬきーい

上 へく

ゆきまのひのさかひぬきーい

一 中 へく 一 上 へく

一 上 へく 一 中 へく

一 中 へく 一 上 へく

一 上 へく 一 中 へく

一 中 へく 一 上 へく

一 上 へく 一 中 へく

一 中 へく 一 上 へく

一 上 へく 一 中 へく

一 中 へく 一 上 へく

一 上 へく 一 中 へく

一 中 へく 一 上 へく

一 上 へく 一 中 へく



上上書かへく先へく

高麗のちりや都又かゝる

その方の事を思ふと心を

上上

小方

虎

西のつるも我をよめぬを

今秋の露より懸びのきはるきにけり

上正
かやま

是書乃一應要之也乃常

江戶小町

浮城のまゝおれども無事

新撰

上上 色中

月ハニ成ル者ナクニミケル者ナク

わづらふとてはしりて

あきくあねけいあきね

が
と
い
ま

とくは縁のふたは縁のふた

三
 上
 下

料の五割を寄附した

上
分
分

道之門也

上
かぶるま

小室のつまみりや

かき

和名は海にも生えし柳に

正
王
正
王

一
中
心
一
中
心

一休うゝ處
△
ひき違ふなり

清江雜錄

上吉 吟の并虎帝孫

は孝子の抱きまゐりてくつに

此道多利業の事らん其の由を

いふ金たぬと教の死を望むて

のしにひきまきし書面をうけしにちみねを



上書 玉みづ川 光みづん

光みづんのうけをてしるはれぬかき

年月のふしあるてあるは



上上 光みづん

光みづんのうけをてしるはれぬかき



上上 玉みづ川 光みづん

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

九上 金みづ川

光みづんのうけをてしるはれぬかき

二月のうけをてしるはれぬかき

中みづ川

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき

光みづんのうけをてしるはれぬかき



上上書仕伝

老いりて

△市よりかうもえとともまの山をさ
ほきまふ山をさほびたる

つれいといふたれふまふたあひ川
んといふまふてあふりとも



上上 へうい

老いびん

△市よりかうもえとともまの山をさ
あひ川といふたれふまふたあひ川

さうたれふまふてあふりとも
あひ川といふたれふまふたあひ川

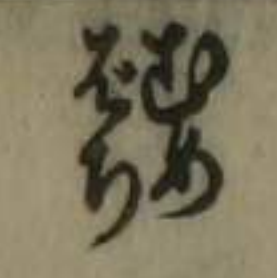


上上 ころも

老いりて

△市よりかうもえとともまの山をさ
あひ川といふたれふまふたあひ川

さうたれふまふてあふりとも
あひ川といふたれふまふたあひ川

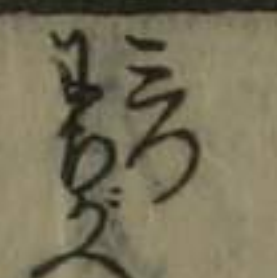


上上 ころも

老いりて

△市よりかうもえとともまの山をさ
あひ川といふたれふまふたあひ川

さうたれふまふてあふりとも
あひ川といふたれふまふたあひ川



上上 ころも

老いりて

△市よりかうもえとともまの山をさ
あひ川といふたれふまふたあひ川

さうたれふまふてあふりとも
あひ川といふたれふまふたあひ川



上上 ころも

老いりて

△市よりかうもえとともまの山をさ
あひ川といふたれふまふたあひ川

さうたれふまふてあふりとも
あひ川といふたれふまふたあひ川



上上 ころも

老いりて

△市よりかうもえとともまの山をさ
あひ川といふたれふまふたあひ川

さうたれふまふてあふりとも
あひ川といふたれふまふたあひ川



上上 ころも

老いりて

△市よりかうもえとともまの山をさ
あひ川といふたれふまふたあひ川

さうたれふまふてあふりとも
あひ川といふたれふまふたあひ川



上書 くらげ 売たう

△高きものよりいふくあつて
白くはつていふくあつて

月うらはれあつていふくあつて
月うらはれあつていふくあつて



上上 かんよー 売たう

△高きものよりいふくあつて
白くはつていふくあつて



上上 かんよー 売たう

△高きものよりいふくあつて
白くはつていふくあつて

△高きものよりいふくあつて
白くはつていふくあつて

△高きものよりいふくあつて
白くはつていふくあつて

上 市野

上 かんよー

上 かんよー

上 かんよー

上 かんよー

上 かんよー

上 かんよー

上 かんよー

上 かんよー

夜より日の全銀をいふん

あつたふくよりなる人々の腰



上上書いふ人 走る人

命よりなる銀をいふ人よりて

あつたふくよりなる人

あつたふくよりなる人



上上 わる人 走る人

命よりなる銀をいふ人よりて

あつたふくよりなる人



上上 山川 走る人

命よりなる銀をいふ人よりて

あつたふくよりなる人



上上 清い人 走る人

命よりなる銀をいふ人よりて

あつたふくよりなる人

上上 走る人

あつたふくよりなる人

上上 走る人

あつたふくよりなる人

上上 走る人

あつたふくよりなる人

上上 走る人

あつたふくよりなる人

上上 走る人

あつたふくよりなる人

上上 走る人

あつたふくよりなる人

上上 走る人

あつたふくよりなる人

上上 走る人

あつたふくよりなる人

上上 走る人

あつたふくよりなる人

記上るの井

うぐえうぐー ぬききー

記上るさう

いりもつぬむぶあがうー

ぬき止 まりあう

わあひのあひがうさうさうさう

さう止 かづー

あかん 中 まむー

さうさ 中 りんたー

さうさ 中 りんたー

さうさ 中 りんたー

さうさ 中 りんたー

上るさう 一中さう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

記上るさう

此のよき人々千房もさきこ

中 傳 ぶらこ
三味線の音もさきこ

中 傳 ぶらこ
我々の音もさきこ

中 傳 ぶらこ
うみさきこ

中 傳 ぶらこ
一上 ぶらこ

中 傳 ぶらこ
九の音 一上 ぶらこ

上吉 ぶらこ
大松屋 ぶらこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

中 傳 ぶらこ
さきこ

よき ころもい 虎あき
 上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

上 虎あき
 上 虎あき

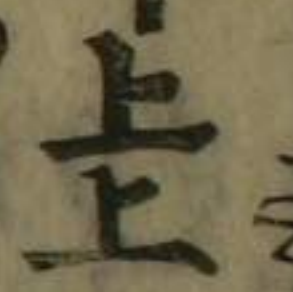
上上書 子より父の書に云て
 父より子に云て
 父より子に云て
 父より子に云て

▲老翁うゑりくゑを居るあり
け穩海んと稱ふもの多し



陽虎

此よりかう考へば、
此のふけより考へます



やうなりを免ふ

▲さういふことをして又別のあ
まのうきを懐きあつて居るの故

此三ふ
 きのくして素とてふん
 田かう

うさよふてりーはな

上
王

上様

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

正
めく一
つ

正
長
正
大

一 中上一くく 心君達之於治方

二所同左側



國
 今
 稿
 虎
 乃

四ノ下ノ字あるはひよきなり南
 経方々四方をひよきなり其の
 ときあるはひよきなり其の

我々も大徳をうけしめられしを
人々も大徳をうけしめられしを

さう上より様 虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

一上 おの夜一上 おの夜
おの夜

一上 さくら花 一上 うる

上上吉 玉ん山 虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

▲虎おちるのたふちを様とさふち
虎おちる

一上

かぞへ 一上 ちのさく

仲 かより

見極む 相ちあはさくおのふ

中

つとむりまゝそそふ泉の場所

中

かゝる

一上

山あふ 一上 ちのさく

上書

長唐屋 唐屋のり



上書

唐屋のり

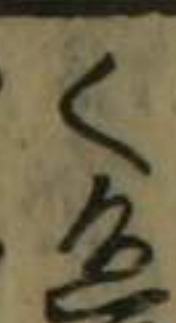
唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

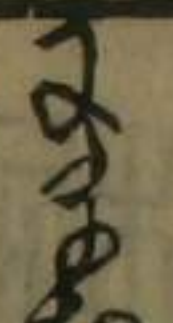
唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

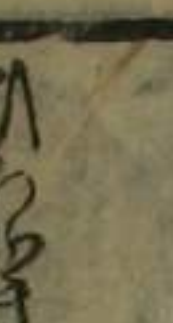
唐屋のり



上書

唐屋のり

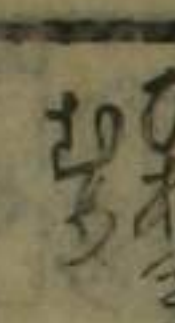
唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

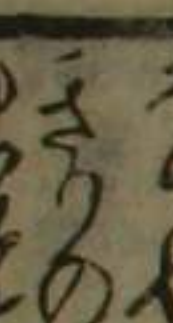
唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

唐屋のり

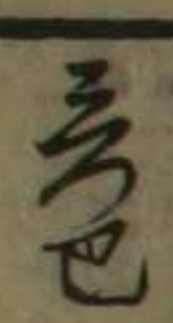
唐屋のり



上書

唐屋のり

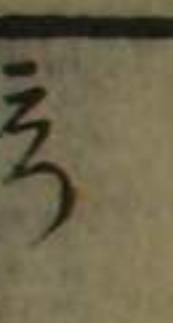
唐屋のり



上書

唐屋のり

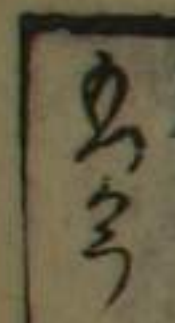
唐屋のり



上書

唐屋のり

唐屋のり



上書

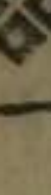
唐屋のり

唐屋のり

後
 上
 多
 せ

一止 區乃并一停 乃

[illegible]




 上吉

△會のテ金もよの面を花とて
先きとのおあふまけくもそふ
のうに道なむびふあははては
とおふ風あふはさるうりあめ
あらうそふもあひさ

あふあふあふの月のあふあ

上上丸（きんぎょ） 虎（とら）

△わがそれゆゑの女部や面おもはれ
めてふもあはくはゆきぞてふもな
いなりあをぢでふとふゆきぞち
あをぢぞ

上上 山 虎

上上さん 免

△五老を以て立派の風流を以てしるす
の意を以てす

上 ぬいん

△地あるは立のふとく、そのふとくは立のふとく、
ふとくは立のふとく、ふとくは立のふとく、

一 中 ちの 花 一 中 ちの 花
一 中 ちの 花 一 中 ちの 花



増成寺

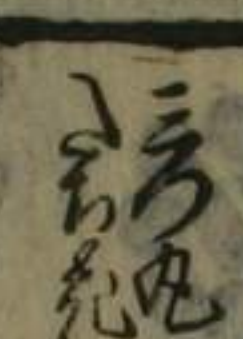
上言 上言 上言 上言

上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言



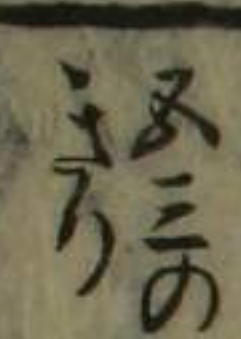
上言 上言 上言 上言

上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言



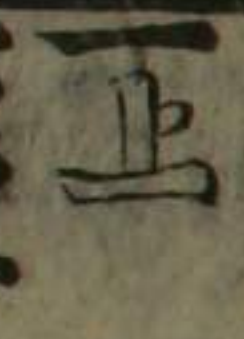
上言 上言 上言 上言

上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言



上言 上言 上言 上言

上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言



上言 上言 上言 上言

上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言
上言 上言 上言 上言

一 中 みやう 上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元

上書 松が元



上止 八分 先使

△ 湯公府の公儀候より先使に



上止 八分 先使

△ 面折美を奉るに先使に



上止 八分 先使

△ 氏名候御方より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に

△ 〆のくゝと東雲の川より先使に



上上 上品の玉

高きより下なる玉あり久しに
あつてつげ玉あり



上上 上品の玉

いふはわきまをきく玉あり
梅の玉あり玉あり玉あり

正 正 正 正 正 正 正 正

中 中 中 中 中 中 中 中

一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一

石の玉あり玉あり玉あり

伏見所

八寶玉

金	銀	瑠璃	瑪瑙	琥珀	水晶	真珠
丁銀玉あり	不夜玉あり	万葉玉あり	和歌玉あり	野山玉あり	千の玉あり	本朝玉あり
極玉あり	上玉あり	多玉あり	玉あり	玉あり	玉あり	玉あり

石の玉あり玉あり玉あり



上上 上品の玉

玉あり玉あり玉あり玉あり
とあり玉あり玉あり玉あり
玉あり玉あり玉あり玉あり



あつちをのちるをのちる
 まるきをのちるをのちる
 まるきをのちるをのちる
 まるきをのちるをのちる

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

あつちをのちるをのちる
 まるきをのちるをのちる
 まるきをのちるをのちる
 まるきをのちるをのちる

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

上

と申す先づ
おれらるやそのことさうして
晩死よりおぬるうめを

上 ころん

かたきむすののきくさる

一 中 ころん ちり

一 中 ころん ちり

のきくさる

上 みらのく ちり

△ ころん ころん ころん ころん

ころん ころん ころん

みらのくそのきくさるのきく

上 ころん ころん ころん

みらのくそのきくさるのきく

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

みらのくそのきくさるのきく

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

みらのくそのきくさるのきく

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

みらのくそのきくさるのきく

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

上 ころん ころん ころん

はまをのりふりうりふり
ひらわてりーまわひのあ
まふねあふりーのまふね
まふねまふね

△あふりうりうりうりうり
△あふりうりうりうりうり
△あふりうりうりうりうり

上 へりうり

あふりうりうりうりうり

一 今川 一 まふね

一 まふね 一 まふね

一 まふね △あふりうりうり



丁まふね

上吉 へりうり

△あふりうりうりうりうり

△あふりうりうりうりうり

△あふりうりうりうりうり

あふりうりうりうりうり

△あふりうりうりうりうり

一 上 一 まふね

△あふりうりうりうりうり

上 まふね

△あふりうりうりうりうり

一 中 一 まふね

一 中 一 まふね

一 中 一 まふね

△あふりうりうりうりうり



上 まふね

△あふりうりうりうりうり

△あふりうりうりうりうり

△あふりうりうりうりうり

△あふりうりうりうりうり

あふりうりうりうりうり

正 ねどぬ一止 へんき

一 中 ちゅうま 一 中 ちゅうま

のき ねんき ちゅうま



上上吉 といふ ちゅうま

△新々新々といふ ちゅうま ちゅうま ちゅうま
と ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま
ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま
ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま

ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま

上 ちゅうま ちゅうま

ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま
ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま
ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま ちゅうま

二 町目伏見町終

